

令和6年度第1回鳥羽市環境保全審議会議事録

開催日時：令和6年10月1日（火）

10:00～11:00

開催場所：鳥羽市役所西庁舎 中会議室

協議事項 鳥羽市地球温暖化対策実行計画の策定について

1. <区域施策編>

～事務局による説明～

(委員)

2050年に2013年度比100%減はどのような意味か。

(事務局)

排出量を完全に0にすることは難しいため、排出量と吸収量を合わせトータルで0になることを意味する。

(受託者)

0にできない排出量は森林吸収やブルーカーボンなどにより、トータルで0にするという意味。

(委員)

中々進捗を感じられないが、国全体で排出量削減の進捗具合はどのような状況か。

(受託者)

おっしゃるとおり実感は湧きづらい。国の言い方としては、「2013年度から2050年ネットゼロに向けた順調な減少傾向」となっている。

2. <アクションプラン案>

～事務局による説明～

(委員)

【対策②】アクション④の「Jクレジット」はどういった意味か。

(受託者)

森林の吸収量を売り買いできる制度があり、吸収量を売買できる形にしたもの。

(事務局)

森林面積や樹木の年齢などから、吸収量を算定できる一般的な式がある。鳥羽市としてもこれから勉強して取り組みたい。

(委員)

各アクションでの削減量の目標値はあるか。昨年度、ゼロカーボンパークに登録されているので、記載いただくとありがたい。

(事務局)

現時点で、各アクションでの数値目標は考えていない。ゼロカーボンパークについてはぜひ記載させていただきたい。

(委員)

各アクションについて、目標の達成時期を記載いただくのがよいと思う。

(事務局)

時期の必要性は認識。いただいたご意見踏まえて検討したい。

(委員)

自動運転や空飛ぶクルマは法令面での準備が整わないと導入が難しいが、準備が整えば市で動きがあることを期待。

(委員)

割合の多い運輸部門からの排出量が 2050 年になるとグッと減るシミュレーションになっているが、どのような計算になっているのか。また、鳥羽市は観光地だが観光客の移動も算定対象となっているのか。

(受託者)

市民の方の排出量を対象に算定しており、観光客からの排出量は含めていない。2050 年にグッと減っているのは国の動きを予測して将来推計しているため。

(委員)

鳥羽市は観光地なので、公共交通の普及にも期待。

(委員)

電車を蓄電池化（電動化）して、鳥羽駅で充電ステーションを整備、などされてもいいのでは。感想なので必ずやってほしいというものではない。市からのコメントは不要。

(委員)

森林吸収だけでなく農業・漁業の藻場でも CO2 を吸収すると聞いた。そういったものを維持するためにも、環境と絡めて何か施策をして欲しい。

(事務局)

鳥羽磯部漁協が南伊勢あたりまでブルーカーボンの認証を得ている。一方、気候変動の影響で南側から環境が変わってきている。地球温暖化防止のため、行政だけでなく事業者や市民の方々と連携して進めたい。

(委員)

鳥羽市は海岸線が大きいので、ぜひブルーカーボンをやってほしい。鳥羽水族館館長の時、800 万円かけてアマモを再生させた。そういった事例が増えると良い。植物プランクトンが増えすぎると赤潮になってしまうなどのリスクはあるが、季節を絞るなどすればできる話と思う。

(委員)

営農型太陽光の話もあったが、鳥羽の景観を守った上で進めてほしい。

(事務局)

ご指摘のとおり、鳥羽の景観を守った上で進めたい。

3. <今後の審議会スケジュール>

～事務局による説明～

(質疑なし)